徳洲会グループ
TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP

発行
一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL：03-3262-3133

制作
一般社団法人徳洲会　広報部
TEL：03-3288-5580　FAX：03-3263-8125
Email：news@tokushukai.jp

ALL LIVING BEINGS ARE CREATED EQUAL

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

No.1560

静岡徳洲会病院

品質保証施設認証を取得

検体検査標準化や高い精度管理担保

静岡徳洲会病院は品質保証施設認証を取得した。これは、日本臨床衛生検査技師会が運営している第三者評価制度で、検体採取を含めた検査工程のすべてを対象とした品質保証の枠組み。認証施設は全国でも604施設（9月7日時点）と限られ、徳洲会グループでは同院を含め5施設のみ（**表**）。同院臨床検査科は2022年に「超音波検査室の精度認定制度」、25年には「輸血機能評価（I&A）認定」を取得するなど、医療の質の維持・向上や精度管理を担保する第三者評価の取得に積極的に取り組んでいる。

個人認定資格の取得推進も



品質保証施設認証書を持つ上田技師長（左）、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師の認定書を持つ安本副主任



個人のスキルアップを業務に還元し、地域からの信頼を高めるとともに地域貢献を促進

品質保証施設認証制度は18年12月に施行された「医療法等の一部を改正する法律」をふまえ、従来の精度保証から、より広範な品質保証体制を認定する制度として発展させ、日本臨床衛生検査技師会が22年に開始。

検体採取や前処理、搬送、検査報告、検査値の解釈、妥当性の確認など総合的に審査対象となり、内部精度管理を通じて臨床検査の精度が十分に保証されていると評価できる施設に対して認証を付与している。

認証の対象範囲は臨床化学、血液、一般、免疫、微生物、輸血、細胞、生理、病理、遺伝子の10部門。静岡病院は今春に受審（システム上での書類審査）し、生理と遺伝子を除く8部門の認証を取得した。認証期間は26年6月1日から28年5月31日までの2年間で、2年ごとの更新制となっている。

認証基準は多岐にわたり、①日本臨床衛生検査技師会が主催している外部精度管理調査に2年連続で参加し、調査に参加したすべての項目に関して一定以上の水準であること、②外部精度管理調査でC評価、D評価だった項目に関して是正処置が適切に行われていること、③検査精度の確保に関する責任者の配置、④標準作業書、作業日誌、管理台帳を配備していること（内部精度管理に関する記録を保管し、活用していること）、⑤人的資源の確保（認証対象の検査室に臨床検査技師が常勤していること。適切な研修の実施、継続的な人材育成を行っていることなど）――の5項目。

臨床検査科の上田真路技師長（臨床検査技師）は「患者さんや、検査をオーダーする医師の先生方からの臨床検査科に対する信頼性のさらなる向上のため、24年の夏から準備してきました。検体検査は検査部門のなかでも大きな部分を占めているため、信頼性を客観的に証明する第三者評価の認証を取得したいと考えていました」と説明する。

認証取得に向けたプロジェクトの推進役として、臨床検査科の安本佑真副主任（臨床検査技師）が事務局を担当。安本副主任は徳洲会グループでも数少ない「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師」の資格を有する臨床検査技師だ。

認証基準を満たすため、2年間、精度管理調査と並行して、まず認証基準を臨床検査科全体に周知。さらに、内部精度管理手順書や内部精度管理マニュアルの作成、精度管理調査でC評価・D評価があった項目に関して原因の究明や解決策などを記録した是正措置報告書の作成など対応を進めてきた。

「約2年後の受審を目指し、認証を取得した8部門のそれぞれに担当者を決めて、部門ごとに書類の作成などに取り組んできました。ゴールを決めて、そこから逆算し、その時々で、すべき課題を設定して、役割を明確にしたうえで担当者に割り振るということを行ってきました。科を挙げての協力体制に支えていただき、期日どおり進捗、認証取得のプロジェクトを円滑に遂行できました」（安本副主任）

他方で安本副主任は、認証を取って終わりではないことを強調する。同認証は2年ごとの更新制であり、今後もPDCA（計画→実行→評価→改善）サイクルを回し続け、継続的改善を図っていく考えだ。

「スタッフの努力や品質管理の成果を形にして“見える化”することで、院内外の信頼性の維持・向上と同時に、達成感を共有することで、スタッフのモチベーションの向上にもつながったと感じています」と上田技師長は振り返る。

国際規格ISO15189も視野

このように同院は施設認証の取得に尽力すると同時に、個々のスタッフのスキルアップにも力を入れ、各種個人資格の取得を後押ししている。認定国際細胞検査士や認定病理検査技師、認定超音波検査士、緊急臨床検査士などの資格保有者が多数在籍し、最近では安本副主任が認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師の資格を取得した。

同資格は「臨床検査全般の分野における精度保証について高度な学識と技術を有する臨床検査技師の育成を図り、より良質な医療を国民に提供することを目的」として、日本臨床衛生検査技師会が設けている認定制度。臨床化学・免疫化学の実務経験5年以上や指定講習会の受講、原著論文や学会発表などにより50単位の取得などの申請資格を満たし、認定試験に合格する必要がある。認定期間は5年間。

「検査部門として、できることに精いっぱい取り組み、責任を果たしていきたいです。少しでも病院全体の高機能化に寄与できればと考えています」と安本副主任は抱負を語る

スタッフ各個人がスキルアップして身に付けた高度な知識・技能が業務に還元されることで、病院としての高い専門性を支え、ひいては外部に対する強力なアピール材料となる。同院は施設認証と個人資格をセットで推進し、地域からの信頼性を高めるとともに、地域医療に対して一層貢献していきたい考えだ。将来的には、臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を定めた国際規格であるISO15189の取得も視野に入れている。

徳洲会グループの品質保証施設認証取得病院

病院名	所在地
福岡徳洲会病院	福岡県春日市
湘南鎌倉総合病院	神奈川県鎌倉市
榛原総合病院	静岡県牧之原市
岸和田徳洲会病院	大阪府岸和田市
静岡徳洲会病院	静岡県静岡市

徳洲会国際心臓血管セミナーin葉山 19日から湘南国際村センターで開催



会場となる湘南国際村センター

徳洲会は9月19日から2日間、神奈川県三浦郡葉山町にある湘南国際村センター国際会議場で「第4回徳洲会国際心臓血管セミナーin葉山」を開催する。「Focus on Mitral Valve(僧帽弁の最前線)」をテーマに、演者には徳洲会グループをはじめ国内外で活躍する医師を多数招聘。

海外からは国際的なエキスパート陣を多数招聘。「循環器診療の未来を拓くAIと革新的テクノロジー」をテーマにした米国のメイヨークリニック特別セッションも実施し、先端技術の臨床応用を紹介する。国内からも各分野を牽引するリーダー陣が結集。「僧帽弁治療の現在と未来」のセッションでは、診断から高度な治療戦略に至るまで、多角的な議論を展開する予定。

また、新たな取り組みとして「ビデオライブセッション」を実施。事前録画映像を活用する形式で、実際の準備段階から手術のリアルな流れを再現する。循環器にかかわる医師など医療従事者、医学生、企業関係者を対象に参加者を募集中だ。

参加申し込み・詳細はここから

指定管理でV字回復の公立病院

榛原病院を地元テレビ番組が紹介



徳洲会の応援する文化への感謝と継往開来の思いを話す森田院長（左）と八木千乃・看護部長

榛原総合病院（静岡県）が、指定管理者制度を活用して経営再建を果たした公立病院の好例として、地元のテレビ番組で紹介された。

同院は、地元の牧之原市と吉田町による組合が運営していたが、2000年代に入ると医師不足など、さまざまな理由で業績が次第に悪化。閉院寸前のなか10年に同制度を導入し、指定管理者となった当時の医療法人沖縄徳洲会（21年に医療法人徳洲会に統合）が運営するようになった。以来、黒字経営を継続。稼働病床は50床から308床、職員数も倍以上に増えた。

放映後、森田信敏院長は指定管理への移行当時を振り返り「職員の退職が続きましたが、再建の先頭に立っていた茂庭將彦院長（現・名誉院長）には以前からお世話になっており、恩に報いたいと考え私は残りました。ひとりで診療を担うことになりますが、外科医として力を試してみたいと高揚感を覚えました」と述懐。

「多くの方に支援いただき、今は明日の閉院を心配する職員はひとりもいません。恩に報いたい、力を試したいという思いは、世代が変わっても大切にしてほしい」と、継往開来の思いを次代へ託す。徳洲会グループでは同院を第1号として、現在、4病院を指定管理者として運営している。

指定管理で運営する徳洲会グループ病院

- 榛原総合病院
- 和泉市立総合医療センター（大阪府）
- 生駒市立病院（奈良県）
- 公立種子島病院（鹿児島県）